

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第2区分

【発行日】令和4年11月21日(2022.11.21)

【公開番号】特開2021-78832(P2021-78832A)

【公開日】令和3年5月27日(2021.5.27)

【年通号数】公開・登録公報2021-024

【出願番号】特願2019-209568(P2019-209568)

【国際特許分類】

A 6 3 F 7/02(2006.01)

10

【F I】

A 6 3 F 7/02 3 2 0

A 6 3 F 7/02 3 0 4 D

【手続補正書】

【提出日】令和4年11月11日(2022.11.11)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

20

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

遊技者が操作可能に設けられた操作手段と、  
判定実行条件が成立すると当否判定を実行する当否判定手段と、  
前記当否判定の結果を、識別情報の変動を経て停止表示する識別情報変動表示手段と、  
演出を実行する演出手段と、  
前記演出に関する設定に基づいて前記演出を制御する演出制御手段と、  
所定条件の成立に基づいて遊技者により遊技が行われていない非遊技中状態と判定し、  
該所定条件の成立の解除に基づいて遊技者により遊技が行われている遊技中状態と判定する遊技状態判定手段と、  
前記操作手段に施す操作態様と調節可能な前記演出に関する設定の態様との関係を示す操作情報を、前記非遊技中状態と判定される場合に表示可能な操作情報表示手段と、  
を備え、  
前記操作手段に施される操作態様に基づいて、前記演出に関する設定を調節可能な遊技機であり、  
前記演出に関する設定を確定させる設定確定手段を備え、  
前記演出に関する設定が確定していない場合に、前記遊技状態判定手段によって前記非遊技中状態から前記遊技中状態になったと判定されても、前記操作情報表示手段は前記操作情報を表示可能であるとともに、前記操作手段に施される操作態様に基づいて前記演出に関する設定を調節可能とされるものであり、  
前記演出に関する設定が確定していない場合、遊技状態が前記非遊技中状態から前記遊技中状態に切り替わると、前記演出に関する設定は遊技状態が切り替わる前に調節されていた設定でよいが否かを確認するための表示が出現することを特徴とする遊技機。

30

40

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0009

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0009】

50

本発明の遊技機は、  
 遊技者が操作可能に設けられた操作手段と、  
 判定実行条件が成立すると当否判定を実行する当否判定手段と、  
 前記当否判定の結果を、識別情報の変動を経て停止表示する識別情報変動表示手段と、  
 演出を実行する演出手段と、  
 前記演出に関する設定に基づいて前記演出を制御する演出制御手段と、  
 所定条件の成立に基づいて遊技者により遊技が行われていない非遊技中状態と判定し、  
 該所定条件の成立の解除に基づいて遊技者により遊技が行われている遊技中状態と判定する遊技状態判定手段と、  
 前記操作手段に施す操作態様と調節可能な前記演出に関する設定の態様との関係を示す操作情報を、前記非遊技中状態と判定される場合に表示可能な操作情報表示手段と、  
 を備え、  
 前記操作手段に施される操作態様に基づいて、前記演出に関する設定を調節可能な遊技機であり、  
 前記演出に関する設定を確定させる設定確定手段を備え、  
 前記演出に関する設定が確定していない場合に、前記遊技状態判定手段によって前記非遊技中状態から前記遊技中状態になったと判定されても、前記操作情報表示手段は前記操作情報を表示可能であるとともに、前記操作手段に施される操作態様に基づいて前記演出に関する設定を調節可能とされるものであり、  
前記演出に関する設定が確定していない場合、遊技状態が前記非遊技中状態から前記遊技中状態に切り替わると、前記演出に関する設定は遊技状態が切り替わる前に調節されていた設定でよいか否かを確認するための表示が出現することを特徴（以下、第１特徴という）とする。  
 【手続補正３】  
 【補正対象書類名】明細書  
 【補正対象項目名】０１２２  
 【補正方法】変更  
 【補正の内容】  
 【０１２２】  
 そして、図１３（ｅ）に示すように、演出ボタン６７を操作すると（押すと）、図１４（ａ）に示すように、メニュー選択画面７Ｄが表示される。  
 このメニュー選択画面７Ｄでは、演出に関する設定の調節対象項目７Ｅと、メニューの選択方法を示す文字情報７Ｆとが表示される。具体的には、図１４（ａ）に示すように、調節対象項目７Ｅを特定するためのメッセージとして、（１）音量調節を示す選択メッセージと、（２）光量調節を示す選択メッセージと、（３）演出モード調節を示す選択メッセージと、（４）画面６ａを非遊技状態中基本画面７Ａに戻すことを示す返還メッセージが上下に並んで表示される。  
 【手続補正４】  
 【補正対象書類名】明細書  
 【補正対象項目名】０１２３  
 【補正方法】変更  
 【補正の内容】  
 【０１２３】  
 ここで、（１）音量調節とは、遊技演出を行う際にスピーカ６６から出力される効果音の音量を調節（制御）することを指し、（２）光量調節とは、遊技演出を行う際に電飾用のＬＥＤ・ランプ２６の発光量を調節（制御）することを指し、（３）演出モード調節とは、遊技演出を行う際に演出モード調節（制御）を行うことを指す。また、返還メッセージとは、調節（音量調節、光量調節、演出モード調節）を行うことなく、非遊技状態中基本画面７Ａに戻すメッセージを指す。  
 【手続補正５】

【補正対象書類名】明細書  
【補正対象項目名】0124  
【補正方法】変更  
【補正の内容】  
【0124】

なお、この返還メッセージは、主に、調節（音量調節、光量調節、演出モード調節）を行うことを欲しない遊技者が、メニュー選択画面7Dを非遊技状態中基本画面Aに戻すためのメッセージである。また、メニュー選択画面7Dが表示されても、調節対象項目7Eを選択する操作が一定時間行われない場合には、自動的にメニュー選択画面7Dが非遊技状態中基本画面Aに返還されるように、制御してもよい。

10

【手続補正6】  
【補正対象書類名】明細書  
【補正対象項目名】0127  
【補正方法】変更  
【補正の内容】  
【0127】

更に、図14（b）において破線で示すように、調節対象項目が返還メッセージ（戻ること）を表示するメッセージ）の左側方に黒丸7Gが停止した状態で項目決定操作を行うと、メニュー選択画面7Dが、図13（d）の非遊技状態中基本画面Aに返還される。

20

【手続補正7】  
【補正対象書類名】明細書  
【補正対象項目名】0130  
【補正方法】変更  
【補正の内容】  
【0130】

更に、演出モード調節メッセージの左側方で黒丸7Gが停止しているとき、演出ボタン67を押すと、演出モード調節フラグの値が「1」とされ、演出モード調節用の調節画面7H（図14（d）を参照）が表示される。この演出モード調節用の調節画面7Hが表示されると、演出モード調節（演出モード選択）が実行可能となる。

また、返還メッセージの左側方で黒丸7Gが停止しているとき、演出ボタン67を押すと、何れの調節フラグも設定されず、メニュー選択画面7Dが、図13（d）の非遊技状態中基本画面Aに返還される。

30

【手続補正8】  
【補正対象書類名】明細書  
【補正対象項目名】0138  
【補正方法】変更  
【補正の内容】  
【0138】

つまり、演出に関する設定を確定するための処理（一定時間（10秒間）が経過して、遊技者が行う操作とは無関係にサブ統合制御装置83が調節フラグの値を「0」とする処理、若しくは、遊技者が施す確定操作）を行う前にサブ統合制御装置83が変動開始コマンドを受信すると、演出表示が開始されても調節フラグの値は「1」に維持される。

40

なお、演出ボタン67を通常の態様よりも長い時間（3秒を超える時間に亘って押圧）で操作（以下、長押し操作という）すると、画面6aが、図13（d）の非遊技状態中基本画面Aに戻される。この場合、演出ボタン67を押し、メニュー選択画面7Dを表示することで、演出に関する設定調節を再度、行うことができる。

【手続補正9】  
【補正対象書類名】明細書  
【補正対象項目名】0194  
【補正方法】変更

50

## 【補正の内容】

## 【 0 1 9 4 】

ここで、実施例 1 では S 1 6 2 0 では変動情報（演出図柄）を大きく表示する演出パターンが設定され、その分、操作情報が小さく表示される可能性が高くなっている。つまり、当否判定の結果が大当りの場合、高確率（例えば、70%の割合）で、第 2 態様 A、B で表示（変動情報及び操作情報の表示）が実行される確率が高く（例えば、70%）、第 1 態様 A、B で表示（変動情報及び操作情報の表示）が実行される確率が低く（例えば、30%）されている。また、S 1 6 2 5 では変動情報（演出図柄）を小さく表示する演出パターンが設定され、その分、操作情報が大きく表示される可能性が高くなっている。例えば、第 2 態様 A、B で表示（変動情報及び操作情報の表示）が実行される確率が低く（例えば、1%）、第 1 態様 A、B で表示（変動情報及び操作情報の表示）が実行される確率が高く（例えば、99%）されている。

10

20

30

40

50